グループでのコメント活動における他者コメントの影響の分析

Analysis of the Influence of Other Participants' Comments in Group Commenting Activities

山口 昌也*1
Masaya YAMAGUCHI *1

国立国語研究所*1
National Institute for Japanese Language and Linguistics *1

＜あらまし＞　ライティングや読解教育では，グループで文章やコメントを共有し，話し合う活動が行われる．このような活動では，コメント時に，他者の事前コメントが影響を与える可能性がある．そこで，本研究では，事前コメントの影響を，コメント付与位置の被験者実験とアンケートによって調査した．調査の結果，コメント付与位置には有意な差は確認できなかったが，事前コメントのメリットとして，コメント書く際の参考になること，デメリットとして，同一意見書き込みの躊躇などがあることが明らかになった．
＜キーワード＞　ライティング，読解，コメント共有，TEachOtherS

1.　はじめに

ライティングや文章読解の教育では，学習者同士で意見を共有し，話し合いを行う，といった活動が行われる（池田・舘岡 2022 など）．筆者らも協同型の作文教育支援システム TEachOtherS（国立国語研究所 2025）を用いることにより，文章にアノテーションしたコメントを共有し，それらをもとに振り返りを行う活動を実施している．例えば，北村・山口（2024）では，大学のゼミ内の論文の輪読において，学生が同一の論文に事前にコメントしたあと，グループで議論する．

このようなコメント活動をリアルタイム共有型システム（例：Google Docs）などで実施すれば，コメント時に他者のコメントの影響を受ける可能性がある．

本研究の目的は，コメント時に他者のコメントがコメントの書き手に与える影響を明らかにすることである．本発表では，事前コメントの影響を被験者実験とアンケート調査により検証する．

2.　グループでのコメント活動

本研究では TEachOtherS を用いたコメント活動を想定し，後述の実験でも使用する．TEachOtherS は協同型の作文教育を支援するために開発された Web アプリケーションである．グループでの文章・コメントの共有や振り返りといった学習者の支援だけでなく，ユーザ・グループ管理，作文・コメント活動・振り返りといった活動フェーズの管理など，教師を支援する機能を持つ．

図 1 はコメント付けの実行例である．コメント箇所は下線で表示され，下線の色は事前に設定したラベルの種別を表す．協同型の活動に対応するために，(a) 重複した下線，(b) 同一文章へメンバー各自が独立してコメント付け，統合後に振り返り，といったことなどが可能になっている．

3.　実験方法

3.1.　概要

実験では，TEachOtherS 上で被験者に文章を提示し，アノテーションする形式でコメントづけを依頼する．提示する文章は４本とし，コメントなし／ありの計８本を用意した．

被験者への文章の割り当て条件としては，(a)各被験者は計４本の文章（事前コメントな



図 1　TEach0therS におけるコメント付け

し／ありの文章をそれぞれ２本ずつ）にコメント付けする，(b) 各文章（前述の８本）に８名の被験者が割り当たるようにする，(c) 被験者を２群に分け，群ごとに文章へのコメント付け順序を設定した．

さらに，実験後，被験者に事前コメントの影響に関するアンケートを実施した．

3.2. 実験条件

実験は，以下の条件で実施した．

被験者：日本人大学生 16 名（学部１年〜修士１年）

対象とする文章：次の条件を満たす４つの論説文である．長さは 1500〜2000 字，テーマは大学生の読者を前提に，事前知識はなくても読めるが、考え甲斐のある話題（教育・社会・環境・テクノロジーなど．テーマ例：『AI 時代の「書く力」は何のためにあるのか』）とした．作成には，ChatGPT（GPT-5）を使用した．

コメントの付与：コメントは次の五つの観点に対し，原則として１観点１個つける：(a)なるほど，(b)違和感，(c)もっと知りたい,(d)著者の主張，(e)著者の問題意識．(a)〜(c)は付与の理由，(d)(e)は被験者の意見をコメントする．

事前コメント：観点(a)〜(c) は１観点２コメント，(d)(e)は１観点１コメントを ChatGPT（GPT-5）により作成した．

4. 実験結果

4.1. コメント位置への影響

ロジスティック混合モデルによる分析を行った．目的変数は，事前コメントのマークアップ範囲に対して，被験者のコメントのマークアップ範囲がその 50%以上と重複するか，である．固定効果は，事前コメントの有無，文章，観点，ランダム効果は被験者とした．

分析の結果，事前コメントはコメント位置の一致オッズを高める傾向にあったが，統計的には有意ではなかった（$\beta = 0.409$, $p = .187$, OR = 1.51）．また，事前コメントの有無と観点との交互作用を含むモデルについても検討したが，どの交互作用項も有意ではなかった．

4.2. アンケートの結果

実験後のアンケートにおいて，事前コメントの影響を５段階評価で被験者に尋ねたところ，「4　ある程度影響した」15 名，「2　あまり影響しなかった」１名だった．

事前コメントのメリットとデメリットについて被験者に尋ねた結果（複数回答可）から上位４位まで表１，２に示す．この結果から，

表１　事前コメントのメリット

アンケート項目	人数
コメントの書き方の参考になった	13
コメントの下線を付ける位置を決めやすくなった	8
自分では選ばなかった箇所や観点を考えるきっかけになった	6
事前コメントと違う点がはっきりし自分の意見を整理しやすくなった	4

表２　事前コメントのデメリット

アンケート項目	人数
事前コメントと自分の意見が似ていて，コメントするのをためらった	9
事前コメントが「正解」や「模範」に見えてしまい，批判的に読みにくくなった	8
事前コメント箇所に引っ張られ，他の場所に目が向きにくくなった	8
事前コメントのせいで，コメントの内容や視点が限定されたと感じた	6

事前コメントのメリットは（コメント内容ではなく）コメントを付与すること自体の参考になったこと，一方，デメリットとして，同一意見の書き込みの躊躇やコメント内容・個所の限定などの悪影響がうかがえる．

5. おわりに

本発表では，グループでのコメント活動における事前コメントの影響を明らかにするため，被験者実験とアンケートを行った．コメント位置への有意な影響は確認できなかったが，事前コメントのメリット・デメリットを示した．

謝辞：研究は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語学習者の作文教育支援研究」の一環として行われた．被験者，共同研究員の方々に感謝いたします．

参考文献

国立国語研究所(2025) 作文教育支援システム TEachOtherS. https://teachothers.ninjal.ac.jp/system.html （参照日 2026.06.29）

池田玲子・舘岡洋子（2022）ピア・ラーニング入門：創造的な学びのデザインのために．ひつじ書房

北村雅則，山口昌也（2024) TEachOtherS を用いたゼミでの輪読における議論支援の試み．日本教育工学会 2024 年春季全国大会講演論文集